

水素関連分野への投資に特化したファンドにおける IPEF ウィンドウの設定

経済産業省は、一般社団法人水素バリューチェーン推進協議会（以下、「JH2A」）と株式会社アドバンテッジパートナーズ（以下、「APJ」）が共同で設立を目指している水素関連分野への投資に特化したファンド（以下、「本ファンド」）を支援し、本ファンド内に IPEF ウィンドウを設定します。

IPEF 域内で実施される水素関連活動に資金を動員するための IPEF ウィンドウは、同地域における水素の製造、貯蔵、輸送、消費を含む水素の総合的な利用強化を目的としています。

この目的を達成するための具体的な活動には、例えば、電気分解・アンモニア変換・再生可能エネルギー発電を含む水素および水素派生物の生産施設の設立、貯蔵施設の設立、液化水素や金属水素化物などの技術開発、パイプラインや船舶などの輸送施設の設立、産業・輸送・エネルギー貯蔵・発電等、エネルギー転換を促進するための水素の利用拡大のための検討などが含まれます。

経済産業省は、IPEF 域内の民間セクターが本ファンド及びその IPEF ウィンドウに参加し、貢献し、またこれを最大限に活用することを奨励します。IPEF ウィンドウは民間セクターの投資を促進し、もって IPEF 域内の水素サプライチェーン強化のための資金源を多様化することが期待されています。

IPEF ウィンドウの下で行われている活動の進捗状況は、日本・シンガポールが共同で立ち上げた「IPEF 域内水素サプライチェーン・イニシアティブ」のイベントや会議、あるいは、年次開催される「IPEF クリーン経済投資家フォーラム」のセッション等で定期的に報告される予定です。また、こうした場を活用して、IPEF ウィンドウに係る官民双方の関係者が、本ファンドの IPEF への貢献をさらに強化するための取組みのあり方について検討することも想定されています。

経済産業大臣である齋藤健氏は、「水素は脱炭素化への突破口となる可能性があります。本ファンドの IPEF ウィンドウは、ファンドとプロジェクト提案者とのマッチメイキングを通じて、IPEF 域内でのプロジェクト開発を促進します。今後のフォーラム等において IPEF ウィンドウの進捗状況について報告できることを楽しみにしています。」と述べました。オーストラリア、フィリピン、シンガポールは、IPEF 域内における水素サプライチェーン開発に向けて民間投資を促進しようとする日本のリーダーシップを歓迎しています。

経済産業省は、まず、JH2A および本ファンドの運営チームと緊密に協力し、本ファンド及び IPEF ウィンドウが、その趣旨に則って効果的かつ効率的に運営されるよう、調査や研究、その他の手法を通じて貢献する考えです。

IPEF ウィンドウは、IPEF 参加国の官民双方による貢献と利用のために常に門戸が開かれています。